



群私幼

No.
1
7
7

2017年(平成29年)1月20日発行
 (一)群馬県私立幼稚園・認定こども園協会

発行人 原 徳明
 編集人 小林 勝

群私幼事務局/☎371-0854 前橋市大渡町1-10-7
 群馬県公社総合ビル6F 私学センター内
 TEL.027-280-6206
 FAX.027-280-6208
 URL・http://www.gunshiyou.jp/



平成29年度 教員免許状更新講習 受講対象者について

平成29年度教員免許状更新講習の受講対象者は、普通免許状または特別免許状を有し、平成30年3月31日が修了確認期限となる方と、平成31年3月31日が修了確認期限となる方が対象となります。修了確認期限を必ず確認してから申し込んで下さい。

平成30年3月31日が修了期限の方

生年月日	
昭和37年4月2日～昭和38年4月1日	
昭和47年4月2日～昭和48年4月1日	
昭和57年4月2日～昭和58年4月1日	
修了確認期限	免許状更新講習の受講期間
平成30年3月31日	平成28年2月1日 ～平成30年1月31日

平成31年3月31日が修了期限の方

生年月日	
昭和38年4月2日～昭和39年4月1日	
昭和48年4月2日～昭和49年4月1日	
昭和58年4月2日～昭和59年4月1日	
修了確認期限	免許状更新講習の受講期間
平成31年3月31日	平成29年2月1日 ～平成31年1月31日

※群私幼では、現時点で夏の中級・上級講座ならびに研究委員研修会において、それぞれ6時間分の選択講習に充当させる予定です。また、県内の教員養成系の大学・短大等で実施される所があります。詳しいことは、各自で問い合わせ下さい。



雪遊び 「みかん拾い競争頑張るぞー！」

三ツリーダーの会代表幹事 茂木 直

去る11月18日に群馬県富岡市、(認)なのかいちこども園にて、栃木県幼稚園連合会青年部の方々との研修会・交流会を企画、実施いたしました。今回の研修会は、前半はこども園の施設見学会を行い、後半は榎本学園理事長である榎本義法先生に講演をしていただきました。講演テーマは「30歳で園長になって〜艱難辛苦と志〜」です。若くして園長に就任した苦労や、志についてお話していただきました。また、研修会後に行われた意見交換会では、他県の就園状況や保育内容など非常に有意義な情報交換を行うことが出来ました。



三ツリーダー研修会報告

CONTENTS

- ② 平成29年 新春に寄せて
 *原 徳明 群私幼協会会長
 *半田良幸 学事法制課長
- ③ 幼稚園訪問記
 * (認)ぐんま幼稚園
 ぼほえみインタビュー
 * (認)沼田幼稚園
- ④ 幼児教育センターの保育相談 Q&A
 連載「フロムぐんまちゃん」
- ⑤ 「あそびのタネ」
 私のとっておきの時間
- ⑥ まなざし ～私の幼児教育論～
 私の園のフォト日記
- ⑦ 研修日より
 *新採研(後期I) (10/18)
 *教育課程研究協議会(10/24)
 *研究委員研修会 (12/26)
- ⑧ *設置者・園長研修会 (11/22)
 新春お年玉アンケート(広報記事人気投票)
 編集後記

「協力一致」の群私幼

(一社)群馬県私立幼稚園・

認定こども園協会

会長 原 徳 明



謹んで新春の挨拶を申し上げます。新制度が移行して1年9ヶ月が過ぎ、県内各市・町ではそれぞれが異なった歩みを辿り、一方、未だにその対応に苦慮している園もありません。群私幼としては、これからは私学の独自性を守り、幼児教育・保育の質を担保する、これを軸に加盟園の皆様と進むべき道を模索していきたいと考えています。

待機児童の問題が連日のようにマスコミで取り上げられ、当初の国の予測では平成29年度をピークに待機児童は解消する見込みでしたが、今のところとどまる気配すらありません。県内でも待機児童解消のために保育所を新設

したり、定員増を図ったりする一部の地域も少なくありません。さらに、私達の現場では人材確保が深刻な問題となつていきます。養成校に求人を出しても応募が少なく採用に結びつかないからです。これに対して保育所がどうかとか一般企業がどうかと言っても始まりません。何故ならば、それはひとつの時代の流れで避けようのないことだからです。ですから私達は、それを嘆いてばかりいないで、何とか知恵を絞っていかなくてはなりません。

経営を意識して長く生き残る「企業生存率」という言葉があります。事業を立ち上げ、5年で85%の企業が廃業

しているという国税庁のデータがあるそうです。私学は永続性を担保に設置認可されていますが、時代の流れに対応することが如何に難しいことを物語っています。

本年は酉年です。酉は十二支の第10番目で、動物では鶏が割り当てられています。現代では、栄養価値の高いエネルギーの供給源として飼育される鶏ですが、暗黒の夜に悪霊が跳梁すると信じられた古代には、勇ましい鳴き声で世界に夜明けを告げ、闇を追い払い太陽を呼び出す暁の使者と言われてきました。会員の皆様と共に120園が一丸となつてあらゆる局面を乗り越え、実りある1年でありたいと思います。

祝平成二十九年 新春に寄せて

新年の御挨拶

群馬県総務部学事法制課

課長 半田良幸



新年あけましておめでとうございます。群馬県私立幼稚園・認定こども園協会の皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、私立幼稚園・認定こども園関係の皆様には大変お世話になりました。各種研修会や会議等で、多くの先生とお話をし、幼児教育の状況を拝見させていただく中で、皆様が幼児教育に惜しみなく情熱を注がれておられること、幼児教育の重要性を改めて実感いたしました。

昨年は、待機児童問題についてのお母さんのつぶやきから、子育て支援行政の

重要性が改めて認識されました。こうした中、「子ども・子育て支援新制度」も3年目を迎えることとなりますが、学事法制課としても、こども未来部と連携しながら業務を進め、またこれから新制度に移行されることをお考えの皆様も含め、新制度が円滑に実施されるよう努力いたします。

素晴らしい自然をはじめ恵まれた環境の群馬県で、質の高い幼児教育がなされることは、園児一人ひとりの健やかな育ち、人間形成の実現につながると思えます。伝統的な幼稚園制度においても、新制度においても、将来を担う子

ども達のために、幼児教育の充実・発展を願う点は一緒です。幼児教育の無償化に向けた取組の段階的推進など、子ども達を取り巻く状況が大きな変革期にある今、子ども達の健やかな成長のためには皆様のお力が不可欠です。群馬県私立幼稚園・認定こども園協会の皆様には、今後とも御尽力をいただければ幸いです。

本年は、とり年です。皆様にとりまして、さらなる飛躍の年になりますよう御祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



テラスに飾られた製作が、秋風に揺れています

少すつ葉が秋色に染まり始めた10月中旬、高崎市金古町にあるぐんま幼稚園を訪ねました。自然豊かで閑静な環境の中に位置しているぐんま幼稚園。園の正門は木々の温かい木漏れ日に包まれていました。広い園庭の中心には大きなプールが常設され、そのプールを囲むようにして園舎が建てられて、元気がいい子ども達の声が響きわたっていました。登園の時間帯には先生方が園庭に面している解放感のあるテラスで、子ども達を笑顔で迎え入れていました。テラスには子ども達が作った製作物が吊るされており、心地良い秋の風に揺れています。平成22年より認定こども園となったぐんま幼稚園。現在0・1歳児から年長児まで約270名の園児が通園しているそうです。0歳から2歳児の未就園児を対象とした親子教室等も積極的に行われており、子育て支援事業にも力を入れているそうです。それぞれのクラスを回って行くと、ハロウィンに向けた製作物で教室が賑やかに飾られていました。階段やお遊戯室にまで、子ども達が作った作品が飾られており、先生方が工夫を凝らして子ども達の作品を展示されている事や、季節感を大切にされている様子が伝わってきました。訪問日の1週間前には近隣の小学校の校庭で運動会が行われたとの事で、会場を飾った子ども達の作品も見せて頂きました。運動会の盛り上がり之余韻、そして子ども達を主体として年間を通した行事にも取り組まれている事が伺えました。また、訪問したその日は避難訓練が実施されていました。非常ベルの音と共に先程までの雰囲気は一変。しっかりとハンカチで口を抑えながら真剣な表情で全園児が園舎から出てきました。あつと言間に避難が完了し先生方と子ども達、園全体の一体感が感じられました。

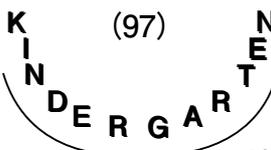


(認)ぐんま幼稚園の巻 (高崎市)

園舎には子ども達の元気一杯の音が響き渡ります

幼稚園訪問記

シリーズ



ワークを大切にしており、取り組みの一つとして、先生方一人一人の保育日誌に毎朝欠かさず目を通し、その時々各クラスの状況を細かく把握できるよう意識されているそうです。先生方との円滑なコミュニケーションによって、園全体の温かい雰囲気や活気を生み出しているように感じられました。明るくパワフルなぐんま幼稚園の先生方。そんな先生方や恵まれた自然に囲まれ、子ども達も個性を伸ばしながら逞しく育っている事が伺えました。今回、お忙しい中取材にご協力頂いたぐんま幼稚園の皆様、ありがとうございます。(塚越・北原・中村/記)



真剣に訓練に取り組む子ども達。素早く避難する事が出来ました

園の方針や心掛けについて園長の福島先生から直接お話を伺いました。「みんなと同じ事が出来るのを良しとするのではなく、一人一人の個性を引き出し、能動的に行動出来る子どもを育てていきたい。」と、熱心に仰っていました。そして現在ぐんま幼稚園には2名の男性保育者があり、園長先生は「男児のダイナミックな遊びをより活発に充実させていけるような役割を担ってほしい」という願いを持っていらつていました。また、職員間のチームワークを大切にしており、取り組みの一つとして、先生方一人一人の保育日誌に毎朝欠かさず目を通し、その時々各クラスの状況を細かく把握できるよう意識されているそうです。先生方との円滑なコミュニケーションによって、園全体の温かい雰囲気や活気を生み出しているように感じられました。明るくパワフルなぐんま幼稚園の先生方。そんな先生方や恵まれた自然に囲まれ、子ども達も個性を伸ばしながら逞しく育っている事が伺えました。今回、お忙しい中取材にご協力頂いたぐんま幼稚園の皆様、ありがとうございます。(塚越・北原・中村/記)



①幼稚園の先生になった理由は、自分自身が幼稚園生だった頃、私は幼稚園が大好きで、幼稚園の先生も大好きでした。中学校の授業でパズルを作って幼稚園の子どもたちと遊ぶ機会がありました。すごく楽しくて、子ども達が可愛くて、自分が幼稚園生だったときのことを思い出しました。将来幼稚園の先生になりたいときの時強く決意しました。

②忘れられないエピソード 初めて年長組を受け持った年の卒園式の日でした。式典も無事に終わり、いよいよお別れというときにひとりの男の子がプレゼントをくれました。私が好きなふなっしーのキーホルダーでした。保護者の方から、本人が先生にプレゼントしたいからとお風呂掃除やお家のお手伝いを頑張ってお買ったと聞いて、嬉しくて涙が止まりませんでした。

③自園のPR 沼田幼稚園は大正14年から続いている歴史ある幼稚園で、開園当時からある園庭の桜の木は四季折々に色づき、毎日優しい表情でみんなを見守ってくれています。お寺の幼稚園なので花祭りやお会式などの仏教伝統行事にも参加する機会があり、運動会や地元商店街のえびす講パレードでは年長組の鼓笛隊が華やかに彩ります。



ほほえみ インタビュー (50)

(認)沼田幼稚園 保育教諭 松井 逸希



④休日の過ごし方 友人とランチやショッピングに出掛けたり、演奏会に行ったり、歌うことが大好きなのでカラオケもよく行きます。平日に出来ないことを楽しんで、翌週の活力にしています。

⑤保育教諭として心掛けていること 毎日の保育のなかで子ども達や保護者の方々、同僚の先生達から学ぶことがたくさんあります。多くの方々に助けてもらったり支えてもらっていることに感謝すると共に、子ども達と一緒に成長していける人間でありたいと思っています。

⑥今、気に入っておすすめるもの 友人から勧められたものです。が、上毛かるたの地を少しずつ巡り始めています。「浅間のいたずら鬼の押出し」から50音順に始めよう！と意気込んだものの、比較的自宅から近い順になってしまいました(笑)群馬県内にもまだ行ったことのない魅力的な場所がたくさんあることに改めて気づき、郷土の素晴らしさを再認識しています。



幼児教育センターの 保育相談Q&A

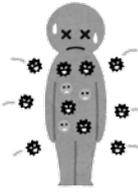
連載 22

群馬県総合教育センター
幼児教育センター長

小林 澄子

Q 感染症が心配な季節になりました。幼稚園・こども園ではどのような配慮や工夫が必要でしょうか。

A 寒さが厳しくなり、乾燥していると、風邪をひく子どもが増えますね。インフルエンザやノロウイルスによる感染性急性胃腸炎の流行も懸念されることです。いったん流行してしまつと長引くことが多いので、予防のために次のようなことを心がけてみて下さい。



○自分の健康に関心を持たせましょう。
手洗い、歯みがき、うがいなど病気にかからないために必要な活動を、自分からしようとする幼児の態度を育てるために、先生方は様々な働きかけを工夫なさっていることと思います。中でも手洗いは感染症対策に有効です。歌や手遊びなどを使って教え、家庭の協力を得ながら楽しく進んで予防に取り組みたいものです。

○危機管理マニュアルの見直しを。

幼児の場合、嘔吐の原因を特定することは容易ではありません。しかし、例年11月から2月はノロウイルスの流行期にあたります。ノロウイルスは非常に感染力が高く100個以下のウイルスで人に感染し発病します。患者の嘔吐物1gあたり100万から1億個ものウイルスが含まれていると言われています。職員全員が適切に処理できるか、また、発生情報等は担任だけでなく預り保育担当職員、支援員等を含めた全教職員で共有できる仕組みになっているか、危機管理マニュアルを見直すよい機会ではないでしょうか。

保護者の啓発も欠かせない視点ですね。○備えあれば憂いなし。

平成24年に学校保健安全法施行規則が一部改訂されたことを受け、「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省)が作られました。未満児を受け入れる園が増え、乳幼児の保育についても視野に入れる必要が出てきている現状様々な点で参考になる資料です。

ある園では、嘔吐物処理に必要な使い捨て手袋・エプロン、ビニール袋、ペーパー等とパウチしたマニュアルをひとまとめにした物を各室に置き、いざという時に備えているそうです。職員研修で実際に処理を体験することをお勧めします。

県からのタイムリーな話題

平成28年8月に岩手県の認知症高齢者グループホームにおいて、台風に伴う暴風及び豪雨による災害発生により、多数の利用者が亡くなるという惨事がありました。これを受けて国から、利用者の安全確保及び非常災害時の体制整備を強化・徹底するよう通達がありました。県においては、東日本大震災を契機に経済産業省によって作成された「保育施設のための防災ハンドブック」の活用とともに、施設の状態や地域の環境に応じた内容を記載できる様式を作成しました。必要な場合は、県子育て・青少年課(027122612626)までお問い合わせください。



経済産業省ホームページ

<http://www.meti.go.jp/policy/servicepolicy/>

kodomo_handbook_2012.html



「子どもたちを守るチカラ」 をつける3つの指針

(1)【知る】
あなたの園と地域は、震災に強い？弱い？
「自分たちの命は自分で守る(＝自助)」
という考えを一人ひとり持つことがとても大切です。実は、災害時にどんな危険があるか、どう動くのがよいかは状況によってちがいます。園の現状や地域の環境をあらためて考え、安全対策と防災対応力を高めましょう。

(2)【演習する】
「防災訓練用対応ケース集」でシミュレーションを
いくら防災知識を身につけても、とっさ
によい判断と正しい行動ができるとはか
ぎりません。また、役割分担を決めてい
ても、非常時にはチームワークがうまく
発揮できないかもしれません。定期的な
避難訓練を、また、防災点検を実施しな
がら、チームで話し合いを深めましょう。

(3)【つながる】

園を救うのは、地域と保護者のつながり
災害が発生したとき、職員だけでは人
手がたりずに子どもたちを守りきれない
ケースや、保護者と連絡がとれないこと
もあります。「近くに暮らす人々が助け
合う(＝共助)」と
いう考えで、日ご
ろから地域や保護者
との協力関係をつ
くっておきましょう。



「あそびの夕ネ」

「足指を動かしてあそぶ」

(1) 足相撲

裸足になって体のバランスをとりながら、足を意識した足指あそびを楽しむ。

(遊び方)

裸足で2人1組となり向かい合う、両手をついてバランスをとりながらお互いの足の裏をあわせて用意する。「はっけよい。のこった。」で手を上げて足で押し合う。先に手や足が下に着いたほうが負け。数回するうちに要領がつかめて勝負を楽しめるようになる。



足ずもう

(2) 足指と手指のあくしゅ

(ねらい)

手指を使い足指を動かすことで、土ふまずの成長を促す。

(遊び方)

裸足になり座る。左足と右手を使う。まず「足と手で握手しましょう。」と話し、左足の指



足と指のあくしゅ

の間に右手の指を入れさせて、できたらゆつくり回してみる。反対回しもやりづらそうな子もいたので手指を1本ずつ入れさせるとやりやすそうだった。普段足指の間にもものが入ったりすることがないので痛がる子もいたが何回かするうちに慣れてくる。

(3) 足指じゃんけん

(ねらい)

足指の運動により、土ふまずの成長を促進する。

(準備)

絵カード

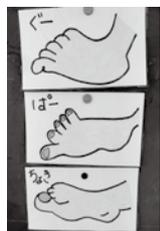
「足のパー」

「足のグー」

「足のチョキ」

(遊び方)

裸足になって、絵カードを見てながら足でする「グー」「パー」「チョキ」をやってみる。グーとパーは簡単そうにできたがチョキの親指をクロスするのがやり難そうだった。じゃんけんの出し方を覚えたら2人組になり座る。「最初はグー」ジャンケン ポンで足でじゃんけんする。最初のうちはお互いに解からない組もあったが、何回かするうちに足の指が動くようになった。



足指じゃんけんのカード



足指じゃんけん

愛の光幼稚園

園長 竹前ま理子

私の「とっておきの時間」、そもそも「とっておきの時間」ってなんでしょう。原稿依頼を受けてから悩んでしまいました。「とっておき」とは、辞書によると「いざという時のために大切にしまっておくことや物」または「いざという時」とは、「さあ、いよいよということになった時や大事や異変に直面した場合」と書いてあります。

私は園長になって10年余り、園長という役職は肩の荷が重く、まだまだ慣れることはありません。だから、職場に向かう毎朝は、「いざ出陣!」といった構えになっ
てしまいます。だからこそ、仕事を終え自宅に戻る時は、役職から解放される肩の荷を降ろす時間にする必要があります。仕事から私生活に気持ち切り替え、自分を取り戻す時は、明日の自分を支える貴重な時間になるからです。

私は家事をしながら音楽を聴いたり、家事の合間や就寝前に、仕事に関係のない書物を読むのが好きです。それは、短い時間ですが心を癒す時となっています。また、私の家族全員、同じ職場で働いています。だから、自宅に戻っても仕事と私生活を切り離し、すっきり荷を降ろすことができにくい環境の中にいます。電話も自宅転送です。ともすると、仕事の話が私生活にも入り込んできます。家族との会話の中でも、園長として応えなければならぬ話もあります。時々、仕事から自宅に戻っても何も



話したくない日があります。私の自宅は職場の近くにありますが、そんな時は、自宅の近所周りですが、心に風を入れるため、ふらつと外に出ます。

また、特に休日ですが、自宅の2階の窓から庭の木や空を見ながら、ボーっとしています。何も考えず、何も話すこともなく、人にも逢いたくありません。生産性はまったくなく、頭も心もからっぽです。幼稚園で園長として働いている姿とは、まるきり逆の姿です。我ながら、本当に暗いなと思います。建設的ではなく、何の役にも立たない時間で、公と私を切り離すことがむずかしい環境の中で、肩にかかる荷物を降ろし自分を取り戻す方法として、ボーっとすることが身についてしまったと言えます。

でも、何もしないことで、時間に追われず、明日という日の「いざという時」のために心にゆとりを持つことになるのなら、この時こそ、私のとっておきの時間になっているのかもしれないと悩んだ末に思うのです。





まなざし

私の幼児教育論

「問」続ける」 (認)藤岡幼稚園 理事長 山田 佳栄子

「今、私にできる幼児との関わりは？」
 今年度から幼保連携型認定こども園に移行し現場を次の世代に託すことにした。若い職員が張りきる姿に、47年前初めて担任した子ども達を前にドキドキわくわく、失敗しても明日こそ！と突進していた自分を思い出し微笑む。始業日の朝、若手、バリバリの現役、経験豊富な教職員を前に、1人ひとりのカラーを出しつつ、皆で協力して「子どもたちの豊かな心と生きる力を育てましょう」とスタートした。ところが新制度になったが故に生じる日々の複雑な事務処理、教職員の勤務体制や教育保育の時間的な配慮、保護者や園児達の多様化など想像しなかった現実が直面することになった。フル回転で対応している教職員を目の前にして、私に何が出来るか？一番大切にしたいものは？乳幼児とのかかわりは？と自問自答した。管理的な立場だけでなく現場の職員の大変な現状を把握し、一緒に考えてみよう。と「一言夕会」を始めた。長時間保育の担当以外の職員が夕方4時に集まり、全員が一言スピーチ(ひとこと言うかい?)をする。内容は自由で表情から職員の間で思いが伝わってくる。「一言スピーチ交換」をすることで、共感や安心感、自己評価や保育談義にまで発展することもある。「現場の先生の一言」を黙って聴くだけで先生の成長の一步が伝わる。あれこれお節介な

口出し手出しは不要であると気付く。多忙で参加できない時もあるが、「何かあったら私が責任を持つから思いっきり保育をやつてごらん」と応援したい。数日後満3歳児から「理事長先生はおばあちゃんなの？昔は何だったの？」と質問され「昔は佳栄子先生だったの」と答えると「ふんママもそう言った」(ママは教え子)これからは市の子ども・子育て支援事業計画の基本理念である『親と地域の絆で子どもを育てるふじおか』を指し幼児教育に携わる者として微力ながら協力させてもらえるだけで嬉しい。地域の多世代の交流の場を提供し多世代の生きる力を子育て支援に活用できたら一石二鳥。(相乗効果)今、私に出来ることは何だろう。地域にお住いの高齢者の皆様と園児達、子育て中の母子と孫育て中の祖父母、放課後児童クラブの小学生もいると大きな家族の集会のような場になれるかもしれない。おばあちゃん佳栄子先生の二役を使い分けて仕事をし、「一言夕会」の効果も信じながら、夢は大きくされど実行はコツコツと出来ることから始めよう。



私の園のフोट日記

(認)山王幼稚園 柿沼とし枝

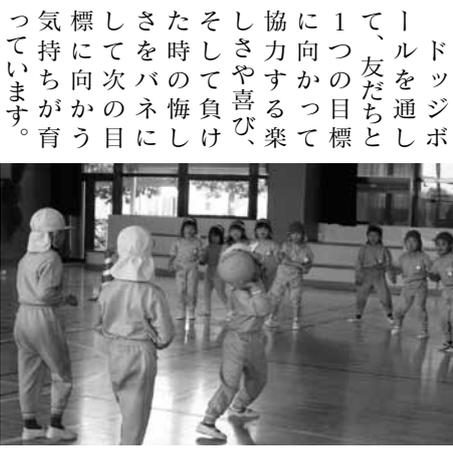
「なわとび」

段々と寒い季節を迎えると、園庭で遊ぶ子ども達も少なくなりがちですが、山王幼稚園では元気に縄跳び遊びをする姿がたくさん見られます。年長児は個々の目標を持って、縄跳びカードを作り練習しています。これは、たくさん跳んで回数を競うのではなく、毎日自分の目標に向かってコツコツと頑張ることを目標にしています。今年、オリンピックイヤーといふこともあり、達成した子どもたちはそれぞれ金・銀・銅のメダルをもらい、さらにまた次の目標に向かって練習しています。「先生、数えて」と駆け寄り、さらには友達も注目されます。その後のカードに記入する様子を園庭にいる子ども達は見つめます。そんなお兄さんお姉さんをまねて、今度は年中児が挑戦します。「せんせい、見てて！」とたどたどしくゆっくゆくと跳び始めます。年少さんも先生と一緒に縄跳びの楽しさを知ります。このようにして、子ども達の遊びの伝承は引き継がれていくのでしよう。



「ドッジボール」

「ドッジボールする人グラウンドに集合〜」の掛け声で、グラウンドに子どもたちがどんどん集まってきました。審判役の子が集まった友だちを2チームに分け、チームごとに作戦を考える話し合いが始まります。「投げるときは相手の膝を狙おう！」「外野は捕るのが上手いA君が良いと思う！」とこれまでの経験から作戦を考えます。以前は互いの意見を伝えることが難しく、話し合いが難航していましたが、試合を重ねるごとに勝つ喜び、負ける悔しさを友だちと分かち合い、少しずつ競争心が育ってきました。今では友だちとの団結力が深まり、試合開始前にチーム全員で集合して「絶対勝つぞ〜!!」と気合十分の円陣を組むほどです。試合が始まると外野と内野で声を掛け合い、1球ごとに歓声が沸き上がります。試合終了の笛まではどちらも譲らぬ真剣勝負です。



高崎健康福祉大学附属幼稚園 野村 舞衣

研修だより

新規採用教員研修会 後期 I

とき 10月18日
ところ (認)きざきまち幼稚園

(認)清心幼稚園 室岡 瞳

10月18日に、きざきまち幼稚園で行われた研修会に参加させていただきました。午前中はおもに園児の姿、保育者の姿、園舎等の見学をしました。きざきまち幼稚園では少人数制の保育が行われており、1クラスに入る保育者の数も多く、1人ひとりの子どもに対応ができる保育が行われていました。また園庭には様々な種類の樹木(クヌギ、スダジイ)やそこにいる虫たち、園で飼育しているクジヤクなど環境が豊かで、こうした環境が子どもの発見や成長(変化)に大きく刺激を与えていると感じました。午後は研修生20名程度ずつで分かれ、分科会が行われました。参加園の先生方から各園の特徴や方針についての話を聞き「なるほど」と感じる場面、さらには悩みを共有し情報交換をする時間もありました。



広い庭でのびのび遊ぶ子どもたち

た。最後に助言してくださった須田園長先生からは、何年目の保育者でも悩みは尽きず、日々の試行錯誤によって保育の展開を考えているのだというお話をいただきました。胸の内、モヤモヤの大きさはそれぞれ異なると思いますが、新人でもベテランでも失敗や反省を繰り返しながらの奮闘があり、日々の保育があるのだと気づきました。昨日よりも今日、今日よりも明日「よりよい保育」を深められるよう精進していきたいです。改めて考える貴重な機会をいただくことができました。



ドングリや落ち葉を使った製作遊び

教育課程研究協議会

とき 10月24日
ところ 群馬縣教育センター総務センター

(認)静和第三幼稚園 石井 美聖

今回この協議会に参加し、これまでの自分の保育を見つめ直す良いきっかけになりました。協議主題1『幼稚園教育要領の理念を実現する為の、各幼稚園における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切実施について』協議主題2『特別な支援を必要とする幼児の状態等に

群私幼研究委員研修会

とき 12月26日
ところ 群馬県公社総合ビル

計画的、組織的な指導の在り方について』という2つの協議主題があり、今回協議主題2に参加させて頂きました。それぞれ持ち寄った資料を基に意見交換をし、他園の取り組みやその成果・課題について話し合い、何を大切にすべきか、重点を置くべきなのか、改善策をまとめました。その中で、職員全体で共通理解すること、密な連携を取り、情報交換し合うこと、などたくさんの方の意見が交わされました。他園の先生方と意見交換をしていく中で、様々な考え方や取り組み方を知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。今までの保育を振り返り、今後活かしていきたいと思えます。

群馬県公社総合ビルにて、群私幼研究委員研修会が行われました。今回の研修では、育英短期大学の柳 晋先生から、幼稚園教育要領の改訂を前に、その変遷と現代の子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた教育内容の見直しなどを教えていただきました。心身



研究委員研修会

の健康とは何か、そして、未来を生きる子どもたちのために幼児期に育ってほしい子どもの姿を考えることの重要性を学びました。

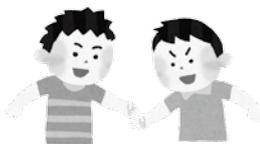
午前の部では、立正大学大学院 平山 許江先生から、「幼児期にふさわしい生活を考えるー言葉や身近な環境を中心にー」。午後の部では、日本女子体育大学 森田陽子先生から、「幼児と健康(実技講座を含む)」を学びました。子どもたちは言葉や文字を、見て、聴いて、生活を通して学んでいる。適切な文字環境だろうか?と日常の保育を見直していくことの大切さを。そして、健康の3条件「運動」「栄養」「休養」について学び、からだを動かすことが楽しいと思える

きつかけづくりをしていくことの大切さなど、日常の保育の中で生かしていく具体的な内容で、大変勉強になりました。



(竹前/記)

実技の一コマ あっち向いてホイ 自然と笑みがあふれます



第1次設置者園長研修会

と き 11月22日
と ころ ホテルメトロポリタン高崎

毎年恒例の設置者園長研修会が、メトロポリタン高崎にて開催されました。朝10時から17時半までの、長時間の研修会でしたが皆さん熱心に今後の園運営に大切な講義に耳を傾けていました。内容は次の様になります。

【午前】

開会式（学事半田課長及び群私幼原会長のあいさつ）、指導及び連絡（学事堀口様より）、諸報告と経営上の情報交換及び現況報告を実施（総務部・研究部・経営振興部係より）



【午後】

講演① 園のための積極的な就業規則 教職員が輝ける職場づくり

講 師 株式会社福祉総研KYOS T A事業部 特定社会保険 労務士 安岡 知子様



講演②

子ども・子育て支援新制度の行方 社会保障制度改革・全日私幼連アンケートから

講 師 全日本私立幼稚園連合会認定こども園副委員長 森迫 建博様



安岡先生の講演は、幼稚園の教職員が輝ける職場づくりの出来る就業規則について豊富な資料を基に判り易く講演して頂きとても参考になりました。森迫先生の講演は今回で2度目になります。2年目となった子ども・子育て支援新制度について全日私幼連アンケートを基に自園での実践例も交えとても判り易く講演して頂き、今現在新制度の園また今後移行を検討している園にも、とても参考になる講演だったと思います。

（小林／記）



おめでとうございます

○群馬県功労者表彰

原 徳明 先生

（長野幼稚園園長）

新春 お年玉アンケート 群私幼広報記事人気投票

年に4回発行される群私幼の記事の中で、一番楽しみにしている記事を下の㊦～㊩の中から一つ選び記号でお答えください。

- ㊦幼稚園訪問記
- ㊧表紙写真記事
- ㊨研究委員会地区活動
- ㊩ほほえみインタビュー
- ㊦本棚
- ㊧新春お年玉クイズ
- ㊨ニューリーダーの会活動報告
- ㊩わたしのとっておきの時間
- ㊦フロムぐんまちゃん
- ㊧保育相談Q&A
- ㊨各種委員会の計画等
- ㊩夏の研修特集
- ㊦保育相談Q&A
- ㊧あそびのタネ
- ㊨私の園のフォト日誌
- ㊩まなざし～私の幼児教育論～

【賞品】

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様にクオカード3,000円分をプレゼントします。当選された方には、2月の設置者園長研修会の折に、園長先生にお渡ししますので園から受け取ってください。

【応募方法】

ハガキに『①氏名②園名③園所在地④一番楽しみにしている記事の記号を1つ』の4項目をご記入の上、群私幼事務局まで（住所表紙掲載参照）送ってください。

【締め切り】

2月10日(金) 当日消印有効

編集後記

今回177号の編集からこの群私幼協会の中で歴史のある群私幼広報誌の委員長を仰せつかりました、小林 勝（群私幼経営振興部理事）と申します。

歴代の広報委員長の先生方には上手く行かない事が、多々あるかと思いますが、広報委員会及び群私幼協会園の先生方のお力をお借りして、当協会の発展のための広報誌を微力ではありますが、頑張る所存ですので宜しくお願い致します。

早速ではあります。今回は群私幼広報記事の中での人気投票をします。景品も多少ですが用意しておりますので、皆様方のご応募宜しくお願いします。広報委員は人気投票順位がどうなるのか期待と不安の気持ちで待つております。

これからの広報誌の充実及び発展の為宜しくお願いします。（小林／記）



- ①応募者氏名
- ②園名
- ③園所在地
- ④一番楽しみにしている記事記号㊦～㊩

■次号178号は、平成29年3月24日(金)に発行予定です。